

ポスターセッション

会員の日頃の活動報告や研究発表を行う場として設けました。
28日昼休みにコアタイムを設け、報告者と参加者の活発な議論が行われました。

仙台市博物館

■東日本大震災における仙台市博物館の資料レスキュー活動

2011年3月11日に発生した東日本大震災を受けて、仙台市博物館では市史編さん室を中心に、他の組織とも連携しながら、資料レスキュー活動を行っている。ポスター展示では、9月末までの活動内容を、①東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）への協力、②NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク（宮城資料ネット）との連携、③仙台市博物館主体の活動、に分けて紹介した。

③について、特に力を注いだのは、個人宅で保管する資料の保全である。これまで市史編さん事業で調査を行った宮城県・福島県・岩手県在住の資料所蔵者371軒に対して、資料の保管を呼びかける文書を送付し、資料の被災情報を収集した。また、仙台市内を巡回しながら未調査であった旧家などを個別に訪問し、資料の被災状況を調査した。9月末までに訪問したのは274軒である。現地では、文書や古写真を中心とした資料の有無や保管状況、家の由緒などについて聞き取り調査を実施し、今後の資料保管を呼びかけた。資料所蔵が確認された場合、水損資料については応急処置を実施し、それ以外の資料については適宜詳細な調査を実施している。

また、個人資料だけではなく、公的施設が所蔵する資料についてもレスキュー活動を行っている。津波被害を受けた小学校3校からは、学校日誌や卒業生名簿などの資料を預かり、乾燥やドライクリーニングなどの応急

処置を実施している。

その他、仙台市内の一部の避難所に対して震災資料の保存を呼びかけた。普及活動としては、仙台平野の地震・津波の歴史や、東日本大震災における資料レスキュー活動を紹介したパネル展を博物館内外で開催している。

（栗原伸一郎）